

海外航空機向け強化

大和合金 売上高比率、早期に2ケタ

特殊銅合金メーカーの大和合金(東京・板橋、荻野茂雄社長)は、海外航空機メーカー向けの販売を強化する。従来は国内の自動車や航空機向け販売が中心だったが、昨年の景気悪化で同分野の需要が急減し、一時は生産がほぼ半減した。これまで手薄だった分野にも販売を広げること、企業体質の強化を図る。現在、航空機向けが売上高に占める割合は数%程度だが、同社では早期に2ケタへの引き上げをめざす。大和合金は、クロム銅やアルミニウム青銅、ペリリウム銅、NC合金などの特殊銅合金を、溶解工程から鍛造などの加工工程まで一貫して生産している。また銅にニッケルやクロ

ム、シリコンなどを添加して開発したNC合金は、熱伝導性と強度の高さが需要家から評価され、ペリリウム銅

の代替材として用途が拡大。現在、F119のエンジン用自動車エンジンの摺動部分や航空機の着陸緩衝装置(ランディング・ギア)の部品素材などに使用されている。

同社は自動車関連分野向けの比率が売上高に占める割合が大きい。2009年の景気悪化の際、自動車メーカーが生産調整を行った影響を受け、生産量が大幅に落ち込んだ。現在の生産(生産の中心を担う三芳合金工業の生産分を含む)は前年同期比70~80%増の月約1100トの水増しまで回復したが、今後は航空機や環境・エネルギー産業など自動車以外の分野の比率も上げることで、リスク分散を図りたい方針。

とくに航空機は、これまで国内メーカー向けの販売が中心だったが、今後は並行して市場が拡大している海外向けにも販売する。ランディング・ギア以外の部材向けでも、NC合金を中心に拡販をめざす。6月にはベルリンで開催された展示会に、自社製品を出展した。